

就労準備支援室より

就労準備支援室からは、就労についての情報や講座、ボランティアなどのご報告をお届けいたします。

講座

知っこ柏

「知っこ柏」の講座は、柏の歴史の中で興味深い話題をってもらう講座です。今回は、今谷刑場跡と酒井根の合戦です。



今谷刑場跡

明治元年(1868年)強盗団が捕縛され、斬首の刑を言い渡されました。当時秩序が乱れていたため見せしめとして、民衆の前で処刑されたそうです。



酒井根の合戦

享徳の乱(1454年)に端を発した、下総における千葉氏の内紛による合戦です。上杉派の太田道灌 vs 千葉孝胤(のりたね)との合戦で、双方千人余りが戦死したそうです。勝利した太田道灌は、敵味方なく首と胴をそれぞれ葬りました。それが、首塚・胴塚として残っています。

目次

- 相談支援包括化推進会議 1
- ゲートキーパー研修 / [ちこネット]実務者ミーティング 2
- はぐはぐフォーラム / 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 3
- 就労準備支援室より 4

柏市地域生活支援センターあいネットでは、柏市から委託を受け、障害の有無や年齢に問わず、生活でお困りの方の福祉に関するご相談をお受けしています。広報誌「じんけんぽん」では、日々の相談員の活動や報告を中心にお届けしています。ご相談いただくみなさん、関わりを持っていただくみなさんにあいネットを身近に感じていただければ幸いです。



報告 ①



柏市では今年度、重層的支援体制整備事業(以後、本事業)の移行事業に取り組み、来年度は本事業を開始します。本事業は地域共生社会の実現を目指すための体制整備事業として、「属性を問わない相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する新たな事業です。

本会議では、来年度円滑に事業実施ができるように柏市から事業説明、顔の見える関係作り、連携に関する課題の共有等を目的に開催しました。あいネットは本会議の運営や進行、総合相談事業の説明、グループワークの進行とファシリテーターを行いました。

グループワークの声

- ・情報共有に良いツールはないか
- ・支援チームで、ゴール設定の意識のずれがある
- ・多機関が連携して支援する場合、どの機関が主を担うのか
- ・連携する際にはお互いの機能や役割が理解できていないといけな

令和3年 相談支援包括化推進会議 [実務者会議]

共有された方針

- 1 既存の相談支援機関間で面的な包括的相談支援体制を作る。
- 2 複合的な課題を抱えたケース等は総合相談事業の多機関協働事業を活用し連携し支援をしていく。
- 3 新たに参加支援や継続的なアウトリーチ支援を実施する。
- 4 地域課題を共有し議論するために、連動する3つの会議体を設置する。



事例検討のような場を設けてほしい! もやもやが解消できました。継続的に実施して欲しい! 貴重な機会でした。

アンケートの声

参加者 32名
地域包括支援センター、基幹・委託相談支援事業所、社会福祉協議会、はぐはぐひろば、スクールソーシャルワーカー、柏市関係部署、あいネット etc

訪問

障がい者雇用支援 IBUKI FARM

柏市高田に4月にオープンするIBUKI FARM(柏駅からバスで高田車庫下車徒歩5分)の説明会にお伺いしました。

責任者1名と障がい者3名が1組となって、ハーブを育ててティーパックなどを作成する仕事になります。顆粒状の土を規定量コップに入れ、ハーブの種を3粒、特殊な溶液を入れ既定の温度管理をします。成長したハーブを刈り取り、乾燥、粉砕、パック詰めといった、定型作業です。勤務時間は実働6時間(休憩1時間)です。



先行企業として、エスプール・プラスの「わーくはびねす農園」があります。こちらは、農園長1名と障がい者3名とが協力し、水耕栽培をする場所づくりから栽培・収穫までを話し合いながら自分のペースで作業していきます。



令和3年度自殺予防対策モデル事業 ゲートキーパー研修

令和3年度自殺予防対策モデル事業の取り組みとして、相談支援業務に従事者を対象に、ゲートキーパー研修が行われました。講師は NPO 法人 Lights Ring. の代表理事である石井綾華さん。NPO 法人 Lights Ring. では、メンタルヘルスの社会課題解決のため、『こころの病』の一次予防を役割と掲げ、ゲートキーパー育成事業をはじめとする若者の自殺対策に全国規模で取り組まれています。

第1回目 / 2022.1.30『若者の自殺を考える』

自殺を考える方は、ご本人から発信されることもあれば、周囲に悩みを打ち明けられず、辛い気持ちを抱え込んでしまうことも少なくありません。特に若者は何か悩みを抱えた際に、周囲に悩みを相談できないという方が大半を占めるそうです。周囲にいる方が、ご本人の外見、表情・口調、行動、言葉の内容や量、食生活や嗜好品、睡眠の量や質の変化に気づき、声をかけてあげることで、孤独感を和らげるきっかけづくりができます。

第2回目 / 2022.2.6『異変に気づき話を聞く際のポイントについて』

ご本人の異変に気づき、話を聞ける状況であれば、まずは意見や感情を否定せず、丸ごと話を聞いて受け止めることが大切だそうです。気持ちを受け入れることで、気持ちを整理するお手伝いができます。ご本人が話しやすい環境を整えた上で、「死にたいと思うことがあるか」「死ぬ方法を考えることがあるか」「実際に試したことがあるか」等、具体的に自殺リスクの確認する必要があるそうです。自殺リスクの程度によって、支援者の関わり方や支援内容を検討することができます。

また、自殺を考える方の支援をする上で、支援者が負担を感じることも少なくありません。支援者自身が心理的負担を軽減させる手段を実践し、心の健康を管理することも大切ということでした。

ゲートキーパーとは？

*厚生労働省ホームページより抜粋

自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことで、言わば「命の門番」とも位置付けられる人のことです。

相談員のオモイ

自殺を考えてしまうほど追い込まれている方が、他人に悩みを打ち明けることは容易ではないと思います。私たち相談員は、そんな方々が発信するサインに気づき、気持ちを軽くするお手伝いができるよう努めてまいります。

千葉県生活困窮者自立支援 実務者ネットワーク(ちこネット) 第9回実務者三々三々

2022.2.26

〈ちこネット〉の実務者ミーティングは、生活困窮者自立支援に関わるさまざまな人が集い、交流と資源向上を図る場です。

第9回は、『アディクションの基本的理解と支援—当事者の生きづらさを理解し、家族を支えるために—』という題目で、遠藤嗜好問題相談室の小笠原裕子さんから基調講演をいただきました。

関係者ができることは、問題に気づくこと、発見すること、問題を見極めその時期に応じた関りをする、問題に振り回されぬよう必要な援助姿勢を貫くこと(無力であること、寄り添うこと、ルールを守ること)と学びました。

アディクションとは？

『害があるのにやめられない』不健康な習慣へのめりこみのことです。具体的には、物質嗜癖(アルコール・違法薬物等)、人間関係嗜癖(共依存・異性依存・恋愛嗜癖等)、過程嗜好(ギャンブル・買い物・ネット等)に分かれています。

相談員のオモイ

その人が長年作り上げた習慣を一度に崩すことは簡単ではないですが、支援者も抱え込まず、チームになって相談者に寄り添う姿勢が求められていると感じました。

はぐはぐフォーラム 2022 子育て支援者ネットワーク座談会 (ZOOM) - これからのつながりづくり - 今のママ・パパの現状から -

2022.2.27



*はぐはぐフォーラムホームページより

子育て中のママ・パパはもちろん、子ども・子育てに関わる全ての人たちが柏の子育てを知り、共に考え、一緒に学び、つながるための「子育て応援イベント」です。公募により集まった市民によって実行委員会が結成され、毎年企画・運営を行っています。

2018年から始まった当イベントも今年で5回目。新型コロナウイルス感染症対策でオンライン開催とした昨年に続き、今年もオンラインをメインに開催します！今年のテーマは「これからのつながりづくり」。ポストコロナ時代の子育てについて、一緒に考えてみませんか？

ファシリテーター

かしわ子育て
まちづくりネットワーク
【ここと】
三好玲子氏

パネリスト

はぐはぐひろば若柴
(相談室ほばら)
子育て支援アドバイザー
家庭児童相談担当職員
こども発達センター従事者
助産師
1歳6か月健診・
赤ちゃん訪問担当保健師
かしわ子ども食堂
【ぶるむクラブ】スタッフ
あいネット相談員

パネリストとして出席しました。当日は、助産師協会の方、柏市家庭児童相談員の方からの事例発表を交えながら、柏市の子育て世帯の現状や課題等の意見交換をしました。事例からは、母の出産後の健康状態の課題や、経済的な課題を抱えた子育て世帯、家族に頼りたくても頼れない核家族問題等の話題がありました。

普段の業務から、連携している顔を知った出席者の方から、名前だけは知っているけれど具体的な活動を知らなかった団体の方、柏市における子育て世帯への支援従事者がそれぞれ抱えている思いや課題、現状等を知ることができました。また、改めて子がいる世帯への支援のあり方や大変さ、支援にあたって各関係機関の熱い思いを聞くことができ、とても勉強になった座談会でした。

第16回 全国若者・ひきこもり協同実践交流会 - JYCCフォーラム

2022.2.23



2006年より各地で開催されているこちらのイベントは、ひきこもりをはじめとする若者たち、その若者たちとともに生きる“家族”や“支援者”等が、より良い実践と社会を生み出す活力を交流するイベントです。2022年は初めてオンラインで開催されました。

午前は『いまこそ問われる”ともにあること”の意味』と題してその意味を問い直し、若者の課題とされていることが社会全体の課題であること等を再確認しました。午後は10個のテーマ別分科会に分かれてディスカッションしました。参加した『オンラインの居場所』では、人それぞれの“居場所”の在り方を協議し、斬新な企画も紹介されました。中でも印象的だった事例は、(公財)京都市ユースサービス協会の“働く大人シリーズ”や“恋愛向上委員会”等でした。いただいたヒントを今後のあいネットでの活動にも活用できればと思います。

実践する者としてイベントに参加し、“場”であふれた声を、現場から届けられる大切な役割を担っていると実感しました。さまざまな視点や意見から得る刺激、同じく実践する方々とのネットワークが大きな活力になる1日でした。

相談員のヒトリゴト

コロナ禍で対面での出会いが制限される中、“人と人”のかかわりについて改めて考える機会が増えました。

“ただそこにいる・ある” [居場所] 実践の意義の一つに、まず「ここにいる大丈夫」と感じ、伝え合えることがあると思います。

事実上だけではない、人それぞれの [居場所] を知り、気づき、ソウゾウすることが、その人が「在る」ことへの YES に近づくのではないのでしょうか。